

一般社団法人 学術英語学会

第10回年次研究大会基調講演 & 学会法人化10周年記念講演

# 「人間味のある英語での学术交流をめざして」

講演者：笠原順路先生（元東京大学助教授、明星大学名誉教授）

講演言語：日本語

日時：2024年9月15日（日）、15時40分～（予定）

場所：東洋大学白山キャンパス・2号館16階スカイホール

英語を使って国際舞台で学術発表しようとしている日本人研究者、とりわけ英語という表現手段ゆえの不自由さ・もどかしさを払拭できずにいる研究者の皆さんに向けて、まず第一部で、一応、英語で論文を書いて口頭発表することはできて、聞き取りが苦手だった講演者自身が、いかに弱点を克服したかという体験談を述べ、それを一般の口頭発表等に敷衍して論じる。第二部で、日本人が英語を用いて世界の舞台で研究発表する際の問題点の本質に迫る。第三部で、講演者が直近の国際学会の口頭発表に応募した際のシノプシスと、発表後の概要を比較して、採用されるための工夫を紹介する。最後にエピソードとして、自身が疑問に感じている点に関し、聴衆の皆さんに二つの問いかけをする。

【講演者プロフィール】  
笠原順路（かさはら・よりみち）

明星大学名誉教授（2023～）、専門はイギリス文学、特に18～19世紀の詩。東京大学助教授（1991-99）、明星大学教授（1999-2023）、イギリス・ロマン派学会会長（2012-16）、日本シェリー研究センター会長（2007-11）などを歴任。主著は、『地誌から叙情へ』（編著、明星大学出版部、2004）、「Byron's Dying Gladiator in Context」(*The Wordsworth Circle*, 2009)、『対訳 バイロン詩集』（編訳、岩波文庫、2009）など多数。

